

## はじめに

大学院連合農学研究科長  
 籾井和朗

鹿児島大学大学院連合農学研究科では、平成28年度に先進的研究事業を推進するために研究科長裁量経費の一部を研究支援費に充て募集を行いました。本研究事業に応募頂きました先生方に深く感謝申し上げます。

その結果、申請研究18件の応募があり、代議委員会による慎重な審査（代議委員9名による1次審査、別の代議委員4名による2次審査）により、佐賀大学から3件、琉球大学から1件、鹿児島大学（水産）から2件の計6件の事業を採択しました。また、研究分野は生物生産科学系1件、応用生命科学系3件、農水圏資源環境科学系2件とそれぞれの分野で先進的な研究事業と思われるものを選び、総額1,560万円の事業となりました。

研究課題としては、

- ・作物の栽植方法を管理して微生物との共生効率を高め収量増加を目指す技術の確立、
- ・スサビノリを用いた機能性発酵食品の開発、
- ・減災科学の新展開を目指した革新的斜面崩壊警報システムの開発と実証、
- ・高効率イソプレレン発酵のためのハイブリットイソプレレン合成酵素の分子基盤構築：分子動力学シミュレーションによるアプローチ、
- ・遺伝子改変小型魚類の養殖魚モデル動物としての評価、
- ・日本内湾域底質にリスクはあるか？～海産魚胚を用いた新しい底質影響試験法の開発と実環境底質のリスク評価

であり、農水産学にとって欠かせない研究に取り組んだものになりました。

事業採択決定が8月であり、十分な研究期間の確保が難しかったと思われませんが、提出された報告書を見ますとそれぞれ貴重な成果が得られており、本研究推進事業は順調に進んだと判断できます。今後、これらの研究が益々発展して、連合農学研究科の基盤的研究となり外部資金の獲得に繋がっていくことや連大生の人材養成に大いに貢献することを期待しております。

連大の優れた研究成果を世界に発信するという使命を元に本研究事業を始めたわけですが、今後ともこのような先進的研究事業に支援を行い、連大の評価を上げることは勿論ですが、先生方の財産となるように活用して頂くことを願っております。

予算削減の中ではありますが、研究科長裁量経費として、平成29年度も同様の支援を継続することにしています。連大構成大学間での連携した先端研究の推進、ならびに九州・沖縄地域の農水産学に関する課題解決に向けた連大教員間での共同研究の展開のため、多くの先生方からの申請を期待しております。